

小学校 音楽科 部会

部会長名 弁城小学校 永水 正博
実践者名 上野小学校 大庭 知美

1 研究主題

豊かな情操を養う音楽科学習指導法の研究

～音楽を特徴付けている要素についてグループで話し合う活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 音楽科の目標と共通事項の新設から

「歌唱」の中学年の目標は、「基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。」ことであり、内容は以下の通りである。

- | | |
|---|--|
| ア | 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌うこと。 |
| イ | 歌詞の内容、 <u>曲想にふさわしい表現を工夫し</u> 、思いや意図をもって歌うこと。 |
| ウ | 呼吸及び発音の仕方に気をつけて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。 |
| エ | 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。 |

中学年の児童は、音の高さを聴き分ける能力が向上する時期にあるため、まず内容アのように、楽曲を聴唱して歌えるようにし、次に楽譜を見ての視唱に移行し、旋律の動きや旋律同士の関わりを意識して歌えるようにすることが大切だと考える。これらの聴唱と視唱の活動を行うことは、内容イの表現の工夫をする力につながってくる。中学年の児童は、表現をより豊かなものにしていこうとする意欲の高まりが見られるようになるため、曲想にふさわしい表現を考えたり、思いや意図をもって歌ったりすることが大切だと考える。内容のウは年間を通して、指導するべきものであり、楽曲の曲想に合わせて、元気のよい胸声的な発声で歌ったり、美しい頭声的な発声で歌ったりすることを意味していると考えられる。さらに、中学年では内容エのように、斉唱に加えて副次的な旋律との合唱に取り組む。ここで、内容のアやウで身につけた自分の歌声を発揮したり、内容のイで考えた歌い方を学級で声を合わせて歌うことにより、心を合わせて歌う喜びも体験できると考える。

このような歌唱の指導により、児童は、表現の工夫をし、声を合わせて歌うことで、より音楽表現が豊かになり、楽しさを味わうことができる。つまり、「歌唱」の中学年の目標を達成するためには、身につけた技能を生かし、曲想にふさわしい表現の工夫をして、友達と合唱したりすることが必要であり、これらの経験が豊かな情操を養う。

また、平成20年度の改訂において、「A表現」の各活動が分けて示されたために、「A表現」及び「B鑑賞」を結ぶもの、あるいはそれらの基盤となるものとして〔共通事項〕が位置づけられた。共通事項には「音楽を特徴付けている要素」と「音楽の仕組み」、「音符や休符、記号や音楽にかかわる用語」がある。

中でも、「音楽を特徴付けている要素」については、「リズムに重点」（低学年）、「旋律に重点」（中学年）、「音の重なりや和声の響きに重点」（高学年）のように、学年で異なった目標が示されていたのが、今回の改訂で「リズム、旋律、速度、強弱、拍の流れやフレーズ」は全学年で指導することになった。その一方で、「音の重なりや和声の響き」や「音階や調」などは、学年が進むにつれて付加されていくという形をとり、音の関係性や様式にかかわるものは、中・高学年から段階的に取り入れられていることがわかる。

このことから、全学年で共通に指導する「リズム、旋律、速度、強弱、拍の流れやフレーズ」は様々な楽曲を通して指導し、体験的に理解させていく必要があると考える。

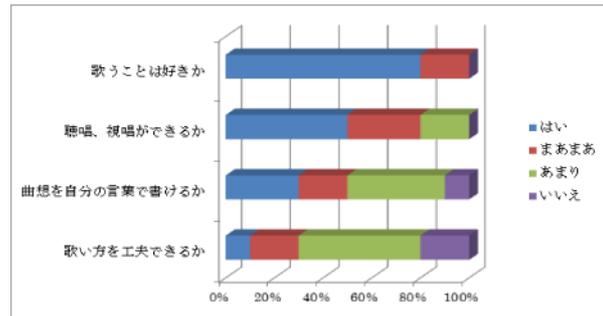
(2) 児童の実態から

本学級の児童は、恥ずかしがらずに歌うことができる。歌うことがとても好きで、毎日朝と帰りに歌う活動に取り組み、学級のみんなと歌う喜びを感じている。低学年の頃から様々な経験を積んでいるため、低学年の歌唱の目標である「基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。」ことは、大いに達成できていると考える。

しかし、楽しく歌うことはできているが、曲想にふさわしい表現はあまりできていない。

例えば、単一の音の強さで歌ったり、フレーズを意識せず息継ぎを小節の途中でしたりなどである。また、曲想をあらわそうと歌詞の意味を把握して表現しようとしたり、曲に対して思いや意図をもって歌おうとしたりする様子はあまり見られない。

以下に示す児童の意識調査からも、曲想を表現すること、その表現のために工夫をすることができていないことがわかる。



資料1 音楽についての意識調査

このように、本学級の児童は、曲想を感じ取って言葉で表したり、その曲想にふさわしい表現の工夫をして歌うことができていないとわかる。

これらの課題を解決するため、音楽を特徴付けている要素についてグループで話し合う活動を通して、曲想にふさわしい表現の工夫をして歌う児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

3 主題の意味

(1) 豊かな情操を養う

豊かな情操とは、美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心をいう。音楽によって養われる情操は、直接的には美的情操が最も深くかかわっている。この音楽の美的情操は、楽曲の曲想をもって生み出される。曲想とは、その楽曲に固有な気分や雰囲気、味わい、表情を醸し出しているもののことである。曲想は、以下の二点によって生み出される。一つは、「音楽を特徴付けている要素」である。音楽を特徴付けている要素には、音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズ、音の重なり、音階や調、和声の響きなどがある。もう一つは、「音楽の仕組み」である。音楽の仕組みには、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係などがある。これらの「音楽を特徴付けている要素」及び「音楽の仕組み」のかかわりによって、楽曲が構成され、そこに感じられるよさや面白さ、美しさなどが曲想である。この曲想を感じ取り、美しいと感じて感動するような経験を通して、情感豊かな心を養うことが大切である。

(2) 音楽を特徴付けている要素についてグループで話し合う活動

音楽を特徴付けている要素についてグループで話し合う活動とは、グループの友達とどのような特徴がある曲なのかを話し合い、それらの特徴をどのように歌えばよいか試行錯誤を繰り返し、よさを伝え合って歌い方を変える活動のことである。

具体的には、楽曲を特徴づけている要素を絞り、その要素について、楽譜を見ながら歌ったり、オルガンに合わせて歌ったり、それを聴き合ったりしながら、どのように歌えばよいかを考え、拡大楽譜に工夫点をまとめる活動である。

このグループでの活動を行うことで、まず児童は自分のもっている曲想と友達のもっている曲想の共通点や相違点に気付き、その曲に対するイメージを膨らませることができる。次に、児童は、友達に対して歌うという相手意識をもつため、その相手に曲想を伝えようと歌い方に変化をつけて歌おうとする。さらに、互いに聴き合いよさを伝え合うことで、曲想にふさわしい表現の工夫をして歌うようになる。

このように、音楽を特徴づけている要素についてグループで話し合う活動を行うことによって、児童は曲のイメージをふくらませ、歌い方に変化をつけ、曲想にふさわしい表現の工夫をして歌うと考える。

4 研究の目標

歌唱活動において、曲想にふさわしい表現の工夫をして歌う児童を育成するために、音楽を特徴づけている要素についてグループで話し合う活動を位置づけた、音楽科学習指導の在り方を究明する。

5 研究の仮説

音楽科の歌唱指導において、音楽を特徴づけている要素についてグループで話し合う活動を行えば、曲想にふさわしい表現の工夫をして歌う児童が育つであろう。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 題材名 歌詞の様子に合った歌い方を工夫しよう「もみじ」

(2) 題材の目標及び指導計画

題 材	「もみじ」		総時数	3時間	時期	11月
単元の 目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「もみじ」の曲想を感じ取り、紅葉の美しさを表現しようと進んで歌うことができる。 (関心・意欲・態度) ○ 歌詞の意味や内容を把握し、曲想にふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって歌うことができる。 (音楽表現の創意工夫) ○ ふしの重なり的美しさに気付き、自分の歌声と友達の歌声を調和させながら歌うことができる。 (音楽表現の技能) 					
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(援助・支援)		
	第1時	紅葉の写真やCDの範唱を聴いて「もみじ」の曲想を感じ取り、歌詞の言葉の確認や主旋律と副旋律の音の動きの確認をして繰り返し歌う活動を通して、進んで楽しく歌うことが	○教科書の写真を見たり、CDの範唱を聴いたりして、感じたことを話し合う。 ○歌詞を一読し、言葉の意味の確認をして、繰り返し主旋律を歌唱する。	・音色 ・リズム 以上の共通事項を取り上げて指導する。		

		できる。	○副旋律の動きを確認し、繰り返し歌詞唱をして、グループに分かれて合唱をする。	
第1次	第2時	「歌詞からの情景の美しさ」を感じ取り、グループで「音色」「強弱」「旋律」の3要素をどのように歌うか楽譜に書き込みながら考え、互いの工夫のよさを生かして歌う活動を通して、「紅葉の美しさを伝えよう」という目標をもって歌うことができる。	○紅葉の様子映像を見ながら範唱を鑑賞し、どんな気持ちになったか発表する。 ○着物と織物の写真を見て、作詞者の表現の工夫に気づき、イメージを深める。 ○2グループに分かれ、主旋律をどのように歌うか楽譜に書き込みながら歌う。 ○友達の表現を互いに聴き合ってよさを発表し、全体でどのように歌うかをまとめて斉唱する。	・音色 ・強弱 ・旋律 以上の共通事項を取り上げて指導する。
	第3時	楽譜に旋律の動きを表す横線や3度の響きを表す縦線を書き込んで楽曲構成を理解し、主旋律と副旋律の音の重なりを意識しながらグループ毎に歌って鑑賞する活動を通して、自分の歌声を友達の歌声に合わせて歌うことができる。	○楽譜に横線と縦線を書き込んで楽曲構成を理解し、カノン風、和声的・対位的表現のよさを感じ取る。 ○各パートに分かれ、オルガンの音に合わせてつられずに歌う練習を繰り返す。 ○グループ毎に歌い合い、友達の歌声と調和させ、伴奏の響きに合わせて美しく歌う。	・音の重なり ・フレーズ 以上の共通事項を取り上げて指導する。

7 指導の実際

- (1) 主眼「歌詞からの情景の美しさ」を感じ取り、グループで「音色」「強弱」「旋律」の3要素をどのように歌うか楽譜に書き込みながら考え、互いの工夫のよさを生かして歌う活動を通して、「紅葉の美しさを伝えよう」という目標をもって歌うこと

ができる。

(2) 展開

学習活動	児童の反応及び指導上の留意点	評価
<p>1. 発声練習をして歌唱表現に意欲をもち、主旋律を歌詞唱する。</p> <p>2. 紅葉の様子の映像を見ながら範唱を鑑賞し、どんな気持ちになったか発表し、めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて グループで歌い方を工夫する活動を通して、聴いている人に紅葉の美しさが伝わるように歌おう。</p> </div>	<p>○肩の力を抜く動きをさせて、リラックスし、自然に頭声的な発声ができるようにさせる。</p> <p>T 1 : どんな気持ちになりましたか？</p> <p>C 1 : 紅葉の赤や黄色の色がきれいだなと思いました。</p> <p>C 2 : こんなイメージをもって歌えた らなと思いました。</p> <p>を工夫する活動を通して、聴いて美しさが伝わるように歌おう。</p>	
<p>3. 着物と織物の写真を見て、作詞者の表現の工夫に気付き、イメージを深める。</p> <p>4. 2グループに分かれ、3要素をどのように歌うか楽譜に書き込みながら考えて歌う。</p>	<p>T 2 : 1 番の歌詞の中で楓や蔦の様子をどんな風だと例えていますか。</p> <p>C 3 : 「山の麓の裾模様」といって着物に例えています。</p> <p>T 3 : 2 番の歌詞の中で水の上に散ったもみじの様子をどんな風だと例えていますか。</p> <p>C 4 : 「水の上にも織る錦」といって織物に例えています。</p> <p>○イメージを深めるために、初めて見せた映像の一部の写真に加え、着物や織物の写真を見せる。</p> <p>C 5 : うわあ、美しいなあ！作詞者は、紅葉の美しさを着物や織物の美しさにたとえているんだね。</p> <p>C 6 : 「もみじ」は歌詞がきれいだね。</p> <p>T 4 : 上のパートをどのように歌えば、今感じた紅葉の美しさを聴いている人に伝えられるでしょうか。</p> <p>○「歌詞からの情景の美しさ」を歌</p>	<p>・歌詞の意味や内容を把握し、曲想を感じ取っている。</p> <p>【発言内容】</p> <p>・どのように歌うか 意見を出し、工夫して歌ってい</p>

	<p>で表現するために、「音色」「強弱」「旋律」という視点を与える。</p> <p>C 7 : 美しさを伝えるためには、高い音をきれいな声で歌うといいね。 (音色)</p> <p>C 8 : 3段目のところは何だか盛り上がる感じがするから、強く歌うといいんじゃないかな。 (強弱)</p> <p>C 9 : 息継ぎをする場所に気をつけて流れるように歌うといいと思うな。 (旋律)</p>	<p>る。</p> <p>【発言内容】</p> <p>【楽譜への記入】</p> <p>【演奏聴取】</p>
<p>5. 友達の表現を互いに聴き合っ てよさを発表し、全体でどのよ うに歌うかをまとめて斉唱す る。</p>	<p>○曲想にふさわしい表現を深め るため、それぞれが考えた歌 い方の工夫点を視点毎に発表 させる。</p> <p>T 5 : 友達の歌声を聴いて音 色はどうでしたか。</p> <p>C 1 0 : きれいだなと思いま した。</p> <p>T 6 : 強弱はどうでしたか。</p> <p>C 1 1 : 音の高さに合わせて 強くしたり弱くしたりしてい ました。</p> <p>C 1 2 : 特に3段目が強かっ たです。</p> <p>T 7 : 旋律はどのように聴こ えましたか。</p> <p>C 1 3 : なめらかに聴こえま した。</p> <p>○思いを伝えるために、音楽 を形づくっている要素を意 識し、表現を工夫して歌うよ うに助言する。特に3段目は 、高い音から始まるため、頭 声的な発声で呼吸を意識させ 、美しく歌うように指導す る。</p>	<p>・情景を思い浮かべて曲想 を感じ取り、頭声的な発声 をしたり、強弱をつけたり して、工夫して歌っている。</p> <p>【演奏聴取】</p>
<p>5. 自分たちの歌声を聴き、学 習のまとめをし、次時の学 習について知る。</p>	<p>○工夫した歌い方による曲 想表現のよさを感じさせる ために、歌声をビデオで撮 り鑑賞させる。</p> <p>T 8 : 自分たちが歌っている 「もみじ」を聴いてどのよ うに感じましたか？</p> <p>C 1 3 : 最初に見た紅葉が頭 に浮かんでくるような感じ がしました。</p> <p>C 1 4 : 声がとてもきれいで 、3段</p>	

目はとても響いて聴こえました。 ○副旋律との合唱をすることを話し、学習への関心・意欲をもたせる。

<児童の様子>

まず、本時での曲想「歌詞からの情景の美しさ」を児童に実感させるため、紅葉の様子の映像を見せた後、着物や織物の実物を見せた。



資料2 山のふもとの裾模様の写真



資料3 水の上にも織る錦の写真

映像に対する児童の反応は「きれい！」という感動の言葉であったため、どの場面か尋ねると上記の2枚の写真であった。これは、1番の歌詞「山のふもとの裾模様」と2番の歌詞「水の上にも織る錦」に該当するものである。この写真と歌詞の言葉、そして実物を照らし合わせた。着物や織物の実物に対してもとても感動した様子であった。

次に、この感動を歌でどのように表現すれば聴いている人に伝わるか工夫するというめあてを確認し、「もみじ」の歌を特徴付けている要素を音色、強弱、旋律に絞ってグループで話し合い活動をさせた。



資料4 グループ活動の様子

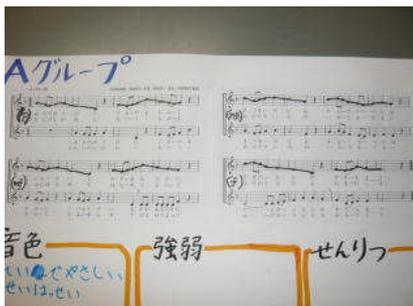
音色については、全体で元気のよい胸声発声よりも美しい頭声発声の方がよいことを全体で確認した。

強弱については、3段目をフォルテにしたグループと4段目をフォルテにしたグループに分かれた。3段目をフォルテにしたグループの話し合いでは、「初めは小さく、真ん中で盛り上がり、終わりは小さく」というように、曲の全体構成を考えて強弱を付けていた。4段目をフォルテにしたグループは、「終わりに近づくにつれて、大きくしていったらどうか」という考えからそのように決めていた。

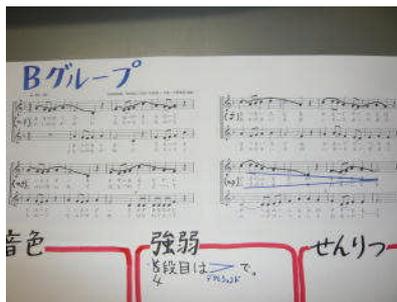
話し合い方を見ていると、3段目をフォルテにしたグループは、オルガンを用い、何度も歌いながら確かめていたため、強弱の工夫が指導のねらいと一致した。一方4段目をフォルテにしたグループは、オルガンを用いて歌う活動よりも楽譜を見ながら考えていたため、終わりを大きくするというねらいとは違った考えになったと考える。

旋律については、楽譜上に旋律線を引かせ、特徴がわかるようにさせた。児童は、線を引くことはすぐにできていた。しかし、旋律が上下していることにはすぐに気がついたが

それを歌い方に生かすという考えにまでは至らなかった。



資料5 4段目をフォルテにした
グループの楽譜



資料6 3段目をフォルテにした
グループの楽譜



資料7 全体での交流の様子

そして、全体での交流を行った。各グループ毎に自分たちの工夫点を発表し、実際に歌って相手のグループに聴かせた。そうすると、4段目をフォルテにしようと考えて歌っていた児童が、「3段目がフォルテがよい」という意見が変わった。その方が、3段目が最も盛り上がり、4段目で終わる感じがするという理由からであった。

最後に、学級での楽譜をまとめ、歌っている様子をビデオで撮影し、すぐに鑑賞させた。そうすると、「まだ感動できるような歌になっていない。」「3段目がフォルテになっていない」と自分たちの歌い方の課題を見つけることができていた。

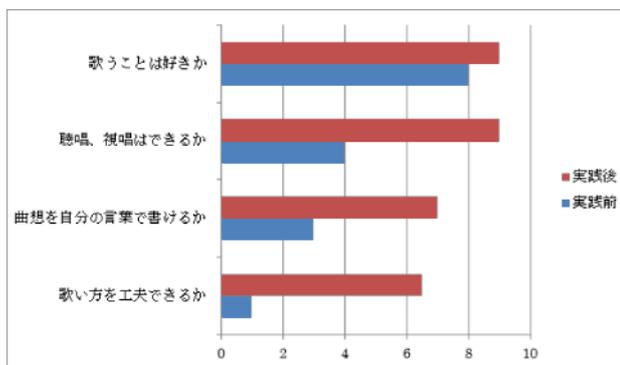
8 成果と今後の課題

- 紅葉の様子や着物や織物の実物の提示を通して、「歌詞からの情景の美しさ」という曲想を豊かにすることができたため、この手立ては有効であった。
- グループで曲を特徴付けている「音色」「強弱」「旋律」について話し合う活動に取り組んだことにより、歌い方に変化をつけようと歌ったり聴いたりしながら試行錯誤する様子が見られたため、この活動は有効であった。
- 全体での交流でグループ毎の違いが明らかになり、どちらの方がより曲想にふさわしいかを聴きながら考えることができていたため、この点においてもグループでの話し合い活動は有効であったと考える。
- 個人の考えをもたない状態でグループ活動に入ったため、考えを話す児童に偏りが見られた。グループ活動の前には、必ず個の時間を設ける必要がある。本時の場合、CDの範唱を聴きながら、どのように歌っているかを聴き取って、強弱を楽譜に書き込んだり、旋律線を引いたりする時間を設ければ、グループでの話し合いがより活発になったであろう。
- グループでの話し合い活動で、どのような話し合いが行われればよいのか、具体的な児童の姿をもっておくべきだった。3段目をフォルテにしたグループの話し合いのような、歌ったり聴いたり、そして話し合ったりすることを繰り返すようにするための支援の仕方を考える必要がある。

9 研究のまとめ

音楽を特徴付けている要素についてグループで話し合う活動について、児童の音楽についての意識の変容から検証する。結果は下記の図3の通りである。

このように、児童が曲想にふさわしい表現の工夫ができていくことがわかる。聴唱、視唱が確実にできるようになっていること、曲想を自分の言葉で書くことができるようになっていくことがわかる。また、歌い方を工夫できると感じている児童が最も伸び率が高いことから、曲想にふさわしい表現の工夫をして歌うことができるようになっていくと考える。



資料10 児童の変容

さらに、歌うことが好きな児童が増加していることから、曲想にふさわしい表現の工夫をして歌うことは、歌唱表現の目標である「基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする」ことにつながることを判明した。

以上のことから、音楽を特徴付けている要素についてグループで話し合う活動を行うことは、曲想にふさわしい表現の工夫をして歌う児童を育てる上で有効であったと考える。

＜参考文献＞

- 文部科学省(2008) 『小学校学習指導要領解説音楽編』教育芸術社
金本正武/坪能由紀子(2008) 『小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり』東洋館出版
竹内秀男(2003) 『イラストでみる合唱指導法』教育出版
高倉弘光(2012) 『〔共通事項〕が見える子どもがときめく音楽授業づくり』東洋館出版